



ハートフルナース

看護師国家試験の

再受験を支援

—高いハードルを越えるために—



JAMNA 研究員
小笠原 広実

2016年度は、再受験支援プログラムに18名の応募がありました。8月の一次選抜試験、10月の二次選抜試験を突破した3名が、第106回看護師国家試験に臨みましたが、残念ながら合格ラインに届きませんでした。あと2点という方もいて、とても残念な結果となりました。

限られた時間での勉強と

日本社会への対応が不可欠に

公益財団法人日本アジア医療看護育成会（JAMNA）では、EPA看護師候補者として来日したものの、日本滞在中は不合格だったためにインドネシアに帰国を余儀なくされた看護師を支援しています。支援を行う方々は、再度国家試験に挑戦したい気持ちがあっても、経済的に自費で来日することが難しい方々のため、仕事を辞めて受験勉強に集中する余裕がなく、日本への出発前日まで仕事をし、有給休暇をとって再受験に来ています。今回支援した3名も、それぞれの仕事を続けながら、学習時間を作り出して頑張ってきました。日本人の看護学生の場合は12月頃か

ら毎日10数時間の受験勉強に入る人がほとんどです。その勉強量に比べてとても厳しい状況です。それでも月に数回の週末を利用しての学習会を重ね、地道に努力してきた3名でした。

平成30年度からは、看護師国家試験の出題傾向が大きく変わると発表されており、昨年からはその移行期として、これまでの過去問題の学習のみでは対処が難しくなっています。日本の社会の変化に伴い、看護師の役割にも変化が出てきています。在宅看護や高齢者看護の重要性が高まり、それに伴った介護や医療制度、福祉サービスのあり方などについても、十分に理解したうえで看護することのできる看護師が求められています。しかし、インドネシアの看護師は日本の福祉サービスについて学んでいないなど、日本の国家試験を受けるために新しく学習しなければならない内容が、年々増えています。私たちも、このような状況をよく理解したうえで、学習支援にあたらなければいけない必要性を痛感しています。

ボランティア日本人元看護師の協力



受験勉強を行う看護師たち

インドネシア人看護師の中でも、仕事を辞めて受験勉強に集中することのできる看護師は、自費での来日も経済的に可能だと思われず。JAMNAでは、不利な条件を承知の上で、仕事をつづけながら学習をして再受験に臨みたい方、本気で日本の看護師として働きたいという希望を持っている方々を支援していきたいと考えています。

（裏面に続く）

今年度は、夫の赴任のためにジャカルタに住んでいる日本人元看護師の方々約10名が、ボランティアで学習支援に協力をしてくださいました。ご家族、特に小さな子供さんを抱える方も多かったのですが、土日の学習会に、交代で時間を作り参加してくれました。それぞれの看護経験、得意分野を活かして、ミニ講義や質問に答えるなど、細やかな指導をして下さいました。

その看護師の方々にとっても、インドネシア生活の中で、インドネシアの看護師の皆さんと交流を持てたことは、今後日本に戻り看護師をしていく際に、国際的な視野の広がりなど何か役に立つことがあるのではないかと期待しています。

支援をした3名からは、協力をして下さった関係者、ご寄付をいただいた企業の方々に、「いろいろと応援をしていただき、心からありがとうございます。ありがとうございました」との伝言をいただいています。この場をお借りして感謝いたします。



川原弘久と受験生と小笠原広実

— 将来のインドネシアの

医療・看護の向上に向けた支援へ —

私たちは、インドネシア人看護師の方々が、単に国家試験に合格して、日本で働くことができるだけではなく、日本での看護師としての経験を、将来インドネシアの医療や看護のレベル向上に役立てていただくことが重要だと考えています。

そのため、EPA候補で帰国した方々の動向や意識について、また、インドネシア側の帰国者の受け入れ体制などについても研究を進めていらっしゃる、兵庫県立大学環境人間学部の宮本節子教授、長崎大学大学院保健学専攻の平野裕子教授、その他異文化看護に関心の高い看護系大学の先生方と、多様な視点から意見交換をさせていただいています。調査協力や共同研究を進めながら、これからも支援の方向性を探っていききたいと思えます。

支援者からの声

プロモーション企画会社 C社様

JAMNAの社会貢献度の高い「再受験支援プログラム」の事業に感銘を受け、設立当初から支援をさせていただいております。

JAMNAの担当者よりEPA制度についてお話を伺い、私も現状について初めて知りました。看護

師国家試験の日本人の合格率は90%前後とのこと。言語や文化、習慣が異なるインドネシア人にとっては難関な試験であることは容易に想像ができます。EPAでの滞在期間中は合格がかわらず、まだまだ頑張りたいという気持ちはあるのに帰国を余儀なくされる状況をなんとか助けようというJAMNAの活動は、未来の看護師の夢を守るだけでなく、日本人看護師にとつても言葉の壁を乗り越えながら教育することで自身の経験を深めることにつながると思えます。また、日本・インドネシア両国の架け橋としての役目も期待できます。



インドネシアでは、2014年にやっと国民皆保険制度が開始されたと聞きました。多くの国民が気軽に医療を受けることができるようになるため、医療の質の向上が今後より一層求められるだけでなく、高度な医療技術を持った医療従事者を増加させていく必要が出てくると思えます。

JAMNAの活動を通じて支援を行った看護師さんには、将来的には日本で学んだことを母国で広めていただき、医療従事者のリーダー的存在として母国の医療や人材育成に貢献してほしいと思います。

弊社は医療事業を行っているわけではありませんがJAMNAの支援を通じて、未来の看護師の夢を叶えるという点、アジアの医療水準の向上に貢献するという点で「医療」に微力ながら力添えができて嬉しく思っています。今後もJAMNAの活動を通じて看護師国家試験の合格者が増え、活躍していただけることを願っています。